

教団新報

定 価 1部180円(本体164円+共243円)
予約購読料 1年分 千共 5,350円
紙代のみ 3,750円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL <http://uccj.org>
発行人 秋 山 徹
編集主筆 嶋 田 恵 悟
印刷所 株式会社きかんし



高知教会 (四国教区)

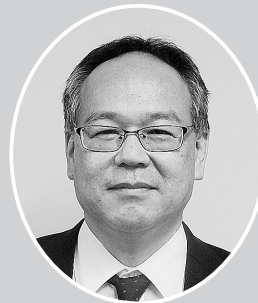
主はこう言われる。バビロンに七十年の時が満ちたなら、わたしはあなたたちを顧みる。わたしは恵みの約束を果たし、あなたたちをこの地に連れ戻す。わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。そのとき、あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めると、わたしに出会うであろう、と主は言われる。わたしは捕囚の民を帰らせる。わたしはあなたたちをあらゆる国々の間に、またあらゆる地域に追いやったが、そこから呼び集め、かつてそこから捕囚として追い出した元の場所へ連れ戻す、と主は言われる。

(エレミヤ書29章10～14節)

メッセージ

平和の計画を生きる

エレミヤ書29章10～14節



黒田 若雄

「災い」としか思えない「今」

神さまはエレミヤを通して、今、私たちに向かって語りかけておられます。「わたしは平和の計画を持っている」と。私たちは、2020年以降、全く予想もしなかった「今」を生きています。感染症、そしてウクライナでの戦争に

よって、この先どうなっていくのか、大きな不安の中に置かれています。ですから、神さまの平和の計画が本当にあるのだろうか、と、思ってしまうように思います。

それでは、エレミヤがこの言葉を届けた人たちは、私たちと違い「平和の計画がある」と直ぐに

い絶望の中にいる人たちに向かって、この神さまの言葉は届けられたのです。

まず、神さまは、この

新しい出会い

しかし、残念ながら、私たち人間がどんなに考えても、「今」が平和の計画の中に置かれることは分らないのです。まずは、災いの中を歩んでいるとしか思えないからです。しかし、その私たちが、今を災いと受け止

の計画がある」と直ぐに思うことが出来る状況にいたのでしょうか。そうではありませんでした。この時、神の民イスラエルは、大国バビロンによって国が滅ばされ、多くの人がその国へ移されたのです。そのような深

しかし、残念ながら、私たち人間がどんなに考えても、「今」が平和の計画の中に置かれることは分らないのです。まずは、災いの中を歩んでいるとしか思えないからです。しかし、その私たちが、今を災いと受け止

めているところから一歩踏み出していくことが出来る唯一の道があります。それは、神さまご自身の「わたしは平和の計画を持っている」との御声を聞かせていただくことです。私たちは、神さまから語り示されて、災

計画について「災いの計画ではない」と明言されます。この言葉に、当時の人たちの思いがよく示されています。彼らにとって、直面した現実の言葉は「災い」としか思えないということでした。私たちが、思いもし

ない現実の前に立たされた時、まずは「これは、災いではと思うのです。今の状況を「コロナ禍」、「禍(わざわい)」と呼んで、受け取っているようにです。そのような人々に、そして、私たちに、神さまは明確に語られるのです。「平和の計画」、「将来と希望を与えるもの」と。神さまが持つておられるのは、災いの計画ではありません。将来と希望を与えるものなのです。

は、約束の地へ帰る時が必ず来るということですから。そうして、回復の時が備えられていることなのです。しかし、神さまが示しておられるのは、単に元に戻るというだけではありません。実は希望の身が、はつきりと示されています。それは、14節で「わたしに出会う」と言われていることです。

彼らは約束の地を離れ異国に移された時、神さまから遠く離れてしまったと思っていました。しかし、そういう彼らに、そこで「わたしに出会う」、「だから「わたしを呼べ」と神さまは言われます。そうして、バビロンで捕らわれた生活をす

る中で、神さまとの新しい出会いが与えられるのです。バビロンでの捕らわれの生活、困難の極みに見えるような場所でも、神さまとの新しい出会いが与えられることが約束されています。

神さまにある将来

昨年3月に、高知教会の教会員のある婦人の方から、「夫が受洗を希望している」との話がありました。その方は、クリスチャンホームに育たれましたが、特に教会との繋がりを持たないまま過ごしておられました。しかし、今回、病気を患

洗の願いが与えられたのです。その時は、県外の病院に入院中でしたが、近々近隣の病院に転院されるので、そこで病床洗式を行うことになりました。その矢先、病状が急変され、逝去されました。葬儀は教会で行い感謝でしたが、洗式が行えず、少し残念な思いも

残りました。葬儀から半年後、逝去された方のご子息から「クリスマスに洗礼を受けたい」との申し出がありました。教会学校に通っておられました。その後、教会との関わりを持たないままでした。しかし今回のことを通し、受洗への志に導か

れたのです。その方は、洗礼準備会の最後にこんな話をされました。「今回、父の洗礼への志や母の祈りがあって自分は洗礼へと至ったと思っていたが、その全てを通して、神さまが導いてくださったことがよく分かりました」と。神さまが全てを用いて、この方のために立ててくださった計画を実現されたということを受け止めさせられました。

した。そうして、神さまの驚くべき働きに感謝させられる洗礼式となりました。私たちは歩んでいる「今」は、大きな不安が覆っているように思えます。しかし、そのような思いの中にいる私たちに、神さまは示されます。「わたしは、災いの計画ではなく、平和の計画を持っている」と。この困難な現実の中を歩むことを通して、私たちが

支える神さまの御手はいかに力強いものであるのか、改めて受け取っていくのです。そして、この現実を歩んでいく先には、私たちが想像もできない神さまにある将来が備えられているのです。神さまの支えを受け取りつつ、私たちは、神さまの平和の計画の中を、前に向かって進んでいくのです。

(高知教会牧師)

統計から見る教団

2021年度 教勢報告（B表）財政報告（C表）
から見えてくるコロナ禍の影響

新型コロナウイルス感染症の拡大が始まってから、4年目を迎えているが、キリスト教界を取り巻く状況の厳しさは続いている。昨年度はコロナ禍初年度であった2020年度と前年度（2019年度）との統計から見た教団の諸教会伝道所における教勢と財務状況について比較検討してみた。そこで明らかとなったことは、礼拝出席者の減少とそれに伴う財務状況の悪化であったが、特別献金が増えるなど、コロナ禍の中にあって、教会伝道所を支えようとする思いと祈りがみられた。

どのような状況であったのか、前年度に続いて、統計データを基に考察を試みた。

2. 礼拝・祈禱会出席者数（平均）

昨年度同様、減少しているのは、礼拝出席者数であるが、21年度は3万6211名と20年度の3万6973名に比べてやや下げ止まった感がある。コロナ禍1年目は、集まって、礼拝や集会をすることが自体を控えねばならなかった状況があったが、2年目に入って、感染症対策をしながら、徐々に、礼拝をはじめとした「集い」が戻りつつあることを窺わせる。

3. 教会学校（平均出席者数、在籍者数）

祈禱会は、昨年度とほぼ変わらず6791名であった。こういう状況であるからこそ、祈りをさしげること、教会伝道所は熱心であることが分かる。

B表の記載欄には、引き続きオンライン礼拝欄を設けているが、各個教会の判断で記入しているもので、コロナ禍2年目になり、再開しているところも少しずつ出てきている。コロナ禍前には1万名（平均出席者数）つ礼拝を実施している教会伝道所数が増加している傾向はみてとれる。20年度は5799件、21年度は6185件。

4. 受洗者数

19年度は902名、20年度は747名、21年度は685名と減少しているものの、主日礼拝の出席数と同じく下げ止まったように思われる。在籍数も21年度1万8861名と20年度1万9981名からは1000名ほど減っているものの、コロナ禍2年目になり、再開しているところも少しずつ出てきている。コロナ禍前には1万名（平均出席者数）つ礼拝を実施している教会伝道所数が増加している傾向はみてとれる。20年度は5799件、21年度は6185件。

5. 教会伝道所数

19年度1675、20年度1666、21年度1660と、次第に減りつつある。この2年間で廃止した伝道所や解散した教会も幾つかあったが、もう一つの傾向としては、合併する教会伝道所が多くみられるようになったことである。結果、数字的には減少として示される。今後、この現象は、コロナ禍に関わらず続くものと思われる。

6. 逝去者数

B表に記入欄を設けて

るな意味で、教会伝道所の伝道の活動が進んでいないことが如実に表れている。昨年度同様、求道者が与えられ難い状況は続いており、受洗への積極的な働きかけも出来ない状況にあることは否めない。この辺りに、オンラインを用いた礼拝や集会の限界がみられる。

7. 献金

収入は19年度経常収入

103億9941万円、20年度経常収入100億8916万円と比較すると、21年度は102億3361万7000円となり、コロナ禍前にやや戻りつつある。個別の項目でみると、19年度礼拝献金は19億1144万3000円、20年度礼拝献金は16億1527万4000円、21年度礼拝献金は16億1912万4000円とほぼ横ばいであるが、19年度月定献金は53億4126万4000円、20年度月定献金は52億1337万1000円と比較する

と、21年度の月定献金は50億8861万円と50億を切る寸前であった。月定献金は教会伝道所を維持する中心の献金であるが、それが減少し始めていくということは、コロナ禍も2年目、3年目に入り、教会伝道所の信徒も流石に息切れして来たのであろうか。

これに対して、21年度の特別献金は32億4747万9000円と19年度の28億4842万円、20年度の29億2880万1000円に比べても大幅に増加している。月定献金は減少し、特別献金が増額した明確な原因は明らかではないが、比較的多額の月定献金をささげていた世代が天に召されつつある中、それを補うかのように、特別献金が増え続けている、という推測も成り立つ。

支出は19年度経常支出80億3176万4000円、20年度経常支出75億3238万6000円に比べると、21年度は75億5709万5000円と漸減している。但し、21年度伝道費は、3億3601万5000円と、19年度4億4138万2000円ほどでは無いが、20年度3億3199万円よりは微増しており、伝道活動が鈍ったとは言えない。経常支出漸減の原因は牧師謝儀の減少と思われる。19年度52億2168万1000円、20年度50億7149万7000円に比べても21年度は50億6507万4000円と減少傾向にある。教会伝道所は、牧師を支えるために、力を尽くし続けているが、コロナ禍前より表れていた「牧師を支えるだけで精一杯の状況」に、コロナ禍が拍車をかけていることは間違いない。このままコロナ禍に収束が見られないなら

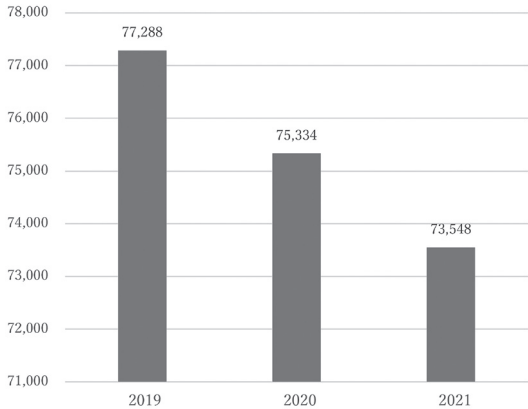
ば、より一層、深刻な事態に向かってゆくであろう。

8. 今後の課題

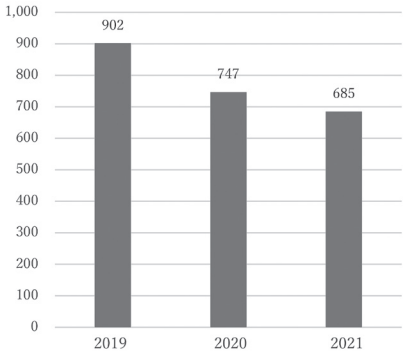
コロナ禍の状況が続く限り、教会伝道所の厳しさは増すことはあっても収まることはないであろう。キリスト教会に限らず、宗教行為の本質である「集まる」（エクレシア）ということが制限を受けている間は、伝道活動も滞りざるを得ない。オンライン礼拝やオンラインによる集会の工夫は続けられるであろうが、それらが、これまでの教会伝道所の活動を、財政面も含めて補い得るのか。コロナ禍3年目を間もなく終えようとしている今、益々問われ始めている。共に祈って、打開策を見出したい。

日本基督教団事務局
総務部 道家紀一

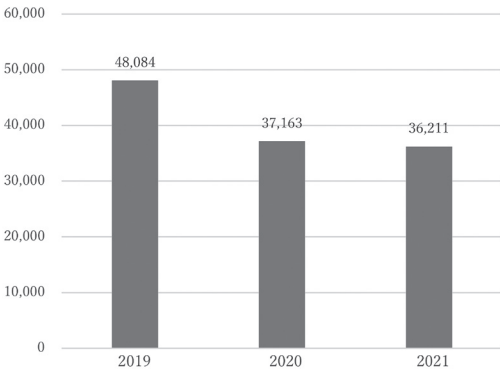
現住陪餐会員



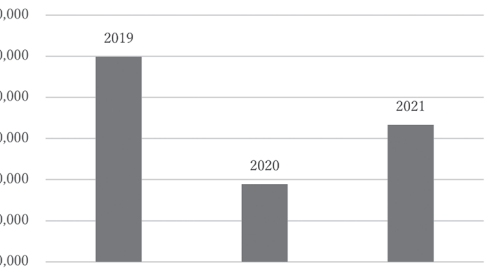
受洗者



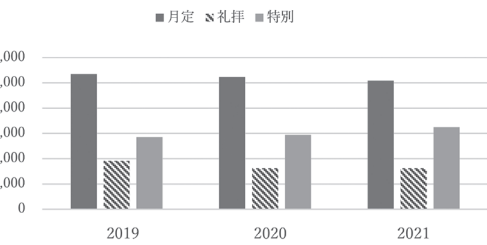
礼拝（主日）



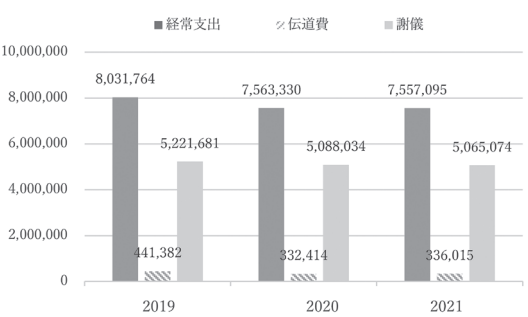
経常収入（千円）



月定・礼拝・特別献金（千円）



経常支出・伝道費・謝儀（千円）



▼予算決算委員会▲

出版局業務改善プロジェクトに教団から貸し出し

第1回予算決算委員会 書記・田村毅朗、川村尚弘、岸俊彦、國吉常喜興、長谷川洋介、吉澤永。常任委員会（3名）の委員には、職員上、委員長と



後列左から、國吉、吉澤、川村、宮下（監査）、長島（監査）各委員
前列左から、岸委員、宇田委員長、服部（監査）委員、田村書記

書記のほか、長谷川委員を互選した。

はじめに秋山徹総幹事より次の報告があった。新総会期の働きが開始した。年金局の理事会は、世代交代の時に入っている。出版局に関しては、理事長に吉岡光人牧師（吉祥寺）が選出されたこと等が報告された。

次に道家紀一総務幹事より、春季教師検定試験の概要。消費者庁から「不当な献金要求」の説明を受けたこと等が報告された。

次に大三島義孝財務幹事より、2020年度教団経常会計決算50万円の齟齬の件につき、1月28日「教団新報」で報告したこと、教団代表役員

▼伝道委員会▲

開拓伝道援助資金、申請額の50%で承認

第1回伝道委員会が、東京にも大雪警報の出された2月10日に教団会議室にて開催された。

今期の委員及び委員会組織は以下の通り。委員長・中西真二（大阪）、書記・山口紀子（更生）、宣教委員会出席・中西真

二、鈴木善姫（海老名）。東京にも大雪警報の出された2月10日に教団会議室にて開催された。

今期の委員及び委員会組織は以下の通り。委員長・中西真二（大阪）、書記・山口紀子（更生）、宣教委員会出席・中西真

二、鈴木善姫（海老名）。東京にも大雪警報の出された2月10日に教団会議室にて開催された。

変更のため、教団が口座を有している各銀行の名義変更手続き中であることが報告された。

諸報告の後、経理規定細則「委員会旅費規程」変更に関する件を取り扱った。第4条①支払い

は領収書に基づくものとする。⑦削除。第6条①の「空路」の旅費支払いも、領収書に基づくものとし、②支払いの上限は、普通席の普通運賃とする

こととした。また、教団が、三井住友銀行に口座を保有している預金のうち、1億円を、期間10年・利率0.435%のパ

ミューダ型コーラフル預金（定期預金）として設定することを決めた。次

に「信徒の友」及び「信仰生活応援セット」贈呈プロジェクトに関する件を取り扱い、原資となるカナダ合同教会からの献金等300万円を、経常会計事業支出第9款第2項から、収益事業会計に支出して、これを行うことを決定した。また、出版局業務改善プロジェクト支援シミュレーション

（田村毅朗報）

（田村毅朗報）

（田村毅朗報）

（田村毅朗報）

（田村毅朗報）

（田村毅朗報）

（田村毅朗報）

（田村毅朗報）

（田村毅朗報）

（田村毅朗報）

（田村毅朗報）

（田村毅朗報）

教区議長コラム

◆ 神奈川教区 ◆

古谷 正仁

昨年12月23日、S国際大学病院の患者であったAさんが、スベリチュアルケアを担当するチャプレン（日本基督教団無任所教師）より、性暴力を受けたとして訴えていた裁判で、東京地裁は被告となった牧師と病院側とに110万円の支払いを命じる判決を下し、その後両者共控訴せず、この判決は確定した。

「二次被害」を生み出すな

えられていることの一つに、深刻な「二次被害」がある。当該牧師が不起訴になった頃から、牧師を支援する団体が活発に活動し、Aさんからすると耐え難い表現の文書が様々に配布された。当該牧師

を支援したいとの願いから生みを与えることが多い。これを防ぐには、私たちの教団・教区において、ハラスメント行為が認定されたことから考へても、もっと慎重にされるべきであったし、Aさんを深く傷つけたことを含め、その責任は重大である。ハラスメント事例においては、申し立てられた側が過剰に反応し、それに共感・同調した支援活動が、結果として被害を受けた方々に「二次被害」として、二重三重の苦し

（神奈川教区議長）



後列左から、片岡、宮本、鈴木（道）各委員
前列左から、山口書記、中西委員長、鈴木（善）委員、オンライン・寛委員

予長浜。

委員会は秋山徹総幹事による開会礼拝の後、委員、道家紀一担当幹事、草深茂雄担当職員の自己紹介より始まった。

今期委員は全員が新任であり、まず、道家担当幹事より伝道委員会の働きについて説明を受け、続いて会計報告、常議員会等の報告を受けた。

2023年度伝道委員会予算案は一部修正の上承認。2022年度後期分一般（会堂建築）貸出金申請については申請通り承認（札幌北光教会）。

2023年度開拓伝道援助資金申請については、今回は一律に申請額の50%の援助とせざるを得なかった（置戸教会、千葉南教会、勝沼教会、

大和高田伝道所、広島船越教会・申請総額970万円）。

開拓伝道援助資金の原資は開拓伝道援助献金と創立記念日献金である。その合計額はコロナ前の2019年を100%とするならば2022年度は56%の約340万円であった。コロナ禍での尊い献金を感謝すると共に、制度継続可能な範囲での援助を模索した上で50%としたことを報告する。なお、この状況の改善を図るために4点の提案も併せて決議した。

今期委員会の方針及び計画に関しては活発な意見交換がなされ、2023年度に教区伝道委員長会議、2024年度に「農村伝道」に関する協議会を開催することを決議。次回までに構想を練ることとし、祈りをもって閉会した。

（山口紀子報）

シリア・トルコ地震被災者 救援募金のお願い

主の聖名を賛美いたします。
去る2月6日、トルコ東南部でマグニチュード7.8の大きな地震が発生いたしました。隣国シリアを含めて多数の死者と行方不明者、被災者が出ています。日本基督教団社会委員会では、すでに支援活動を始めたA C T (Action by Churches Together) Allianceの呼びかけに応じて募金を始めます。ご協力をお願いいたします。
2023年2月14日
第41総会期日本基督教団社会委員長 森下 耕

◎募金期間 2023年5月末
◎目標額 特に定めず
◎送金先 加入者名日本基督教団社会委員会
◎郵便振替 00150-2-593699
（通信欄に「シリア・トルコ救援募金」とお書きください。）
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本基督教団社会委員会（電話 03-3202-0544）

東日本大震災関連記念行事日程

《奥羽教区》
東日本大震災12年を覚えての礼拝
◎日時 3月12日（日）午後2時30分～
◎会場 新生釜石教会 ※YouTube でも配信
◎メッセージ 柳谷雄介教師（新生釜石教会）
《東北教区》
東日本大震災12年記念礼拝
◎日時 3月11日（土）午後2時30分～
◎説教 荒井偉作牧師（名取教会）
◎礼拝ライブ配信 東北教区 Facebook ページより
（集まって参加できる教会もあります）

《第42総会期》 常設委員会等委員 選考結果

新報4990号時点で交渉中となっていた委員を報告します。
〔教師委員会〕
内城恵（羽咋）
〔信仰職制委員会〕
上原智加子（釧路）

事務局報

教会解散
中央福音
信徒伝道者異動
東梅田 辞 鄭 詩温

伝 道 報 告

伝道の
ともしび

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

信仰の証し、宣教の業として

世光教会牧師・世光保育園園長 新井 純

タートしました。3年後、帰米した宣教師夫妻に代わりいろいろは先生が牧師と園長を兼務し始めます。

しかし、教会が建てられた場所は度々宇治川氾濫による被害に遭いました。そこで、1954年教会と園舎をすぐ近くの丘陵に移転させます。それが現在の世光教会の所在地です。

世光保育園は元教団議長でもあった三代目牧師兼園長となった後宮俊夫師の時代に、JR桃山駅東側の現在地に移転しました。現在、150名が園生活を送っています。

神様に愛されていることを子どもたちが知ることができるよう、保育の中で、日々の礼拝やお祈りを大切にしています。イースター、ペンテコステ、アドベントには世光教会まで行って礼拝を捧げます。

その際、世光教会階下にある高齢者デイサービスの利用者も共に礼拝を捧げ、礼拝後に子どもたちの歌を聴いていただくなどの交流もしています(コロナで交流は休止)。

同じ法人が障がい者施設ベテスタの家を設置運営しているのも、そこでの交流もあります。施設メンバーと園児のラグビーは、見ていて笑



▼牧会者とその家族のための相談室委員会▲
より良い電話相談の
あり方を学ぶ

1月31日、牧会者とその家族のための相談室委員会及び、相談室ミーティングが、コロナ禍となつて初めて、教団事務局において対面で実施された。コロナ禍における感染予防と、教団の財政事情を考慮して、オンライン会議を継続してきた。対面で行い、講演を

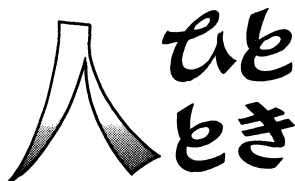
聴き、分団に分かれて課題や牧会者とその家族の痛みと苦しみを分かち合い、祈り合い、主にある新たな力が与えられるような交流会にするために、今から準備の時に入る。相談室の動きが豊かに祝福され、教団の諸教会・伝道所の動きを祈りと傾聴によって支えていく歩みを続けていきたい。

藤崎義宣委員による発題を受けて、相談員と委員共に、より良い電話相談のあり方を学ぶ時を持った。特に、こちらから相談者の危機に介入し、安易な解決へと導こうとするのではなく、相談者自身が、相談電話を通して、自分の心の中にある備えの道に気付いてもらうために、傾聴と受け身の姿勢の大切さを学んだ。

電話での相談と、メールでの相談を実施している。いずれも非常に重い内容のものであるが、相談員と、委員長を中心とした委員が連携して、相談を丁寧に聴き、対応をしている。牧会者とその家族の方々の痛みと苦しみを、電話を受ける相談員と、その相談員を委員会が支える形で受け止め、牧会者とその家族に寄り添い、苦難の先にあ

「教団新報」より、値段変更のお知らせ

23年4月以降発行の4995・96号より、「教団新報」1部の値段(税込み)を、印刷費の値上げ等により、180円から220円に変更させていただきます。
尚、年間購読料は、3,750円から3,080円(送料込3,962円)となります。



中嶋 覺さん

私の恩返し



高輪教会会員
1944年、千葉県木更津市出身

千葉県松戸市から車で片道約1時間をかけて、東京港区の高輪教会に通い続けて42年。教会学校教師の務めを続けていることもあり、教会へはほぼ毎週一番乗りだ。

中学3年の夏に父親が高輪教会に赴任。その翌年に受洗したので高輪教会員歴は約64年ということになる。その間、仕事で駐在していた旭川で約3年間、旭川の教会に客員として出席していたが、教会籍を移すことはなかった。

車の運転が好きなので、約2時間の教会往復はちょうど良いドライブでもある。教会往復の道中にどれほどの数の教会を通り過ぎるかは分からないが、他の教会へ出席す

ることは考えたことはない。

物心ついたところから教会にいたが、牧師の子どもにありがちな、親や教会への反発も経験がなく、教会から離れた経験はないし、そんなことを考えたこともない。

大学生時代から始めた教会学校教師の務めが60年弱、父親が主任牧師であった時代に長老に選出されて以降、被選挙権がある選挙では長老に選出され続け40年弱。当初父親は、自分の子どもが長老職を担うことに反対だったが、教会員の意向もあり、神の御心と思い担い続けている。

改めて振り返ってみると、

の整備や会場の設定の仕方等、教団の本部機構としての業務に

の整備や会場の設定の仕方等、教団の本部機構としての業務に

これからの課題

もも停滞を余儀なくされているが、新しい執行部体制と各委員会の動きが動き始めています。未解決の課題が山積する中で

いえます。教会の宣教手段や宣教環境がコロナの状況によって劇的に変わっていることを感じさせられています。これから世界はどうなっていくのか、この中で教会、教団はどのように宣教の道を切り拓いていくのか。「主を喜びとすることこそあなたがたの力」、全教会が地上的な見通しから得られる希望ではなく頭であるキリストの導きに心を合わせて従う歩みとなるように、執りなし祈る仕事から私の課題となります。
(教団総幹事 秋山 徹)